

第1回クリーンコーポレーションカップ空手道選抜大会

監督会議資料

大会審判長 寺田 徹也

<はじめに>

全国に通じる大会として、高いレベルの技術を競う大会となることを期待すると同時に、「礼」と「節」を重んじる伝統的行動を通して、道徳的精神を培う教育の場となることを願うものであります。そのために、この大会会場の内外を通して正しく行動するよう道場指導者である監督が生徒、保護者共に適切な指導を行い、より良い大会となるようご協力をお願いします。

※コロナウイルスへの予防、対策については各自で適切にお願いいたします。

■北ガスアリーナ使用について

- ① 会場内は土足ですが、アリーナ等への各室内は外靴を脱がなければなりません。脱いだ靴は、アリーナ内に敷いてある**ブルーシートの上**に整頓して置いてください。
※子供達のはだしなど、土足でアリーナ外に出ないようにしてください。
- ② 座席は1,400席と参加人数よりもかなり余裕があります。特に場所は決めませんが、譲り合いの精神でみんなが平等に観戦できるようお願いします。荷物など占領することはしないでください。目に余る行為があった場合には、大会出場を取り消します。
- ③ 道場の旗を掲示する場合は、客席の視界を妨げないようにフェンスの下の方に付けてください。
- ④ 練習会場も譲り合って使用してください。人数の多い道場は多くの場所を必要としますが、場所を独占するのではなく、一定のスペースを道場内で交代して使用するなど、監督が配慮してください。監督は適切な指導をお願いします。
- ⑤ ゴミは責任をもって、**持ち帰る**ようにして、お帰りの際は必ずゴミ拾いにご協力ください。過去に、近くのマンションのゴミステーションに弁当ガラを置いていった団体がいて、苦情が入りました。このようなことが無いようお願いいたします。そのような事態が判明した場合には、該当団体に対して処分を検討しますので、道場責任者は生徒、保護者へきちんとお伝えください。
- ⑥ その他、北ガスアリーナの利用案内に則って、行動するようお願いします。

参加選手は、競技中の怪我について、応急措置は主催者側で行いますが、その後の責任は負いません。

■競技運用上の確認事項について

- ① (公財)全日本空手道連盟組手競技規定並びに本大会申し合わせ事項に従って行います。
- ② トーナメント方式とし、3位決定戦は行いません。
- ③ TATAMIは、1～6コートとします。
- ④ 競技出場の監督・選手以外は、アリーナフェンス内への出入りを禁止します。←
- ⑤ 登録された監督以外、当該競技に随行することができません(必ずIDカード、審判手帳必携)。
- ⑥ 会場内には競技に必要な防具等のほか、ウィンドブレーカー、タオル、飲料水の持ち込みを許可します。
※適度な大きさの袋に入れるなどして管理してください。
- ⑦ カテゴリー毎に競技開始の一斉礼をした後は、次の選手以外は**フェンスの外で待機**してください。決勝戦が終わったら、決勝に残った選手のみで終わりの礼をします。途中で敗退した選手は観客席に戻ってかまいません。
- ⑧ **選手の呼び出しはしません**。モニターに氏名が映るので、タタミへ入る際に必ず確認してください。ゼッケンを用意していないため、記録係や審判は確認できません。
- ⑨ 選手が不在の時は、呼び出し、放送をかけますが、2回呼んでいない場合は棄権となります。
- ⑩ 選手が欠席の場合は、各カテゴリーの試合が始まる前に必ずそのタタミに知らせてください。
- ⑪ 帯・空手着については要項どおりとし、競技規定を十分に確認してください(服装、防具に不備がある場合、監

ただし、小学2年生以下の選手に帯同する保護者だけは入場可としますが、観戦はご遠慮ください。

督の責任となります。)

監督、選手は紳士的な態度で競技に臨むこと。選手の染髪、ピアス、過度の道着の変形等、競技者としてふさわしくないと審判長が判断した場合、出場を取り消す場合があります。

防具等に不備があった場合、1分ルールを適用します。1分以内に正しいものに変更してください。

- ⑫ 組手競技・形競技とともに、メガネ、コンタクトレンズ(ハード)の使用は禁止とします。
※コンタクトレンズ(ソフト)の使用は、個人の責任において認めます。
- ⑬ テーピングはドクターの許可を得、試合前に主審の申し出をし、許可を得てください。指に巻く、軽微なテーピングはOKです。
- ⑭ 大会指定医から競技出場不適切(ドクターストップ)と宣言された競技者は自動的に競技の終了となります。
- ⑮ 10カウントを採用します。10カウントが成立した場合、倒れた選手はその後の試合には出場できません。10カウント以外のC1累積による反則勝ちの場合は、必ずドクターチェックを受け、了承を得た場合は、その後の試合に出場できますので、その旨、タタミマネージャー(コート主任)へ知らせてください。

■監督について

- ① 監督は、北海道空手道連盟会員であり、各地区におけるH31年度監督ID講習受講済者若しくは審判資格を有している者とし、ID若しくは審判手帳を見えるところに提示してください。
- ② 監督の服装は、空手着又は全空連指定ジャージ(上下)とします(新旧問わず)。
- ③ 監督席に着くときは、プログラム、記録用の筆記用具のみ持ち込んでかまいません。
- ④ 監督の行動、言動等が空手道の名譽を汚すと判断された場合には退場もあります。
- ⑤ 団体戦は、オーダー票を用意しません。補欠を出場させるときは試合開始前にタタミマネージャーに申告してください。申告がない場合は、申込時の選手名①のとおりとします。
- ⑥ 団体戦は、できるだけたくさん試合ができるよう決勝戦まで**勝敗が決まってからも全試合行う予定**ですが、進行状況を見て変更もあります。
- ⑦ 団体戦の勝敗は、勝者数の多いチームが勝ちとなります。勝利者数が同じ場合は得点数が多いチームの勝ちとなります。それも同じ場合は大将による決定戦を行います。片方のチームに大将がいない場合は不戦勝となります。両チームに大将がいない場合は、副将戦を行います。

■異議申し立てについて

- ① 審判員の判定・宣告に対して異議の申し立てはできません。
- ② 競技運営に関して(ルール間違い)のみは、登録監督が直接タタミマネージャーに異議の申し立てを行うことができます。この場合、**次の試合が始まるまでに速やかに行うこと**とし、以後は一切受けつけません。

■競技中の負傷と事故について

参加選手は、競技中の怪我について、応急措置は主催者側で行いますが、その後の責任は負いません。参加選手は、全員スポーツ障害保険に加入して、万一に備え健康保険証を持参してください。

■競技方法

- ① **小学生は全少ルール、中学生はカデットルールにより行います。**
主なルールの違いは、上段蹴りのメンホーへのスキンタッチ、足払い、投げ等です。
- ② 競技時間は1分30秒フルタイムとし、6ポイント差をもって競技終了とします。
団体戦において、1試合6点差で勝敗が決まりますが、例えば5-0から3ポイントの技が決まった場合、8-0と記録されます。また、不戦勝、反則負けの場合は0-6として記録されます。
※先取の無い同点、又は無得点の場合は、個人戦は判定、団体戦は引き分けになります。
- ③ 安全具は、全空連検定品です(但し、シンガード・インステップガードについては、WKF(赤・青)仕様でも可、赤の時は赤を付ける事)。
※安全具は選手各自が用意してください。(防具の劣化やマジックテープの不備等に注意すること)

以上、不明な点はタタミマネージャー又は審判長に確認してください。